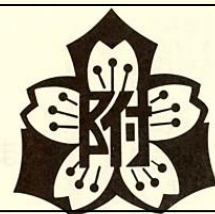


「尚徳」 3月号 第510号 平成27年3月20日

鳥取大学附属小学校 学校便り

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



卒業式特集

3月17日（火）に、附属小学校を中心となって支えてくれた74名の児童がこの附属小学校を巣立っていました。それを記念し、この特集号を発行しました。

「ご卒業おめでとうございます！」

鳥取大学附属小学校 校長 土井康作

74名の卒業生の皆さん、鳥取大学附属小学校のご卒業おめでとうございます。皆さんは、砂の学校、大運動会、児童会などにおいて、学校をリードしてきた素晴らしい最上級生でした。本当にありがとう。

皆さんとの一番の思い出は、旅の学校です。宮島のホテルにおいて、夜の振り返りの会で、人間はなぜ原爆をつくったかとの問いは深く考えさせられました。この平和学習の成果は、群読と劇にまとめ、感動的な「実りの学校」にしました。私は、皆さんの平和への決意は忘れません。



この日を迎えた皆さんは、壇上からみえる卒業式がどのように映ったのでしょうか。

6年間慣れ親しんだ体育館には、日々あなたたちを毎日学校に送り出し、全てを受け入れ、身近で見守り育てていただいた保護者の方々、皆さんにあこがれていた後輩たち、お世話になった担任の先生をはじめ諸先生方、一人一人の顔が目に入ったことでしょう。そして隣には、よく学び、よく遊び、時には喧嘩もし、仲直りをした友もいました。

この光景は多くのことを気づかせてくれます。その一つは、皆さんはこれだけ多くの人たちと『関係』して生きているということです。愛されて、期待されて、生きているということです。

第二次世界大戦中、ユダヤ人として強制収容所に入れられ、その後、生還した心理学者ヴィクトール・E・フランクルは著書「夜と霧」（訳 池田香代子 みすず書房）において、極限の中で生きてきた状況を次のように振り返っています。

「一人一人の人間にそなわっているかけがえのなさは、意識されたたん、人間が生きているということ、生き続けるということに對して担っている責任の重さを、まざまざと気づかせる。自分を待っている仕事や愛する人間に対する責任を自覚した人間は、生きることから降りられない。まさに、自分が『なぜ』存在するのかを知っているの、ほとんどあらゆる『どのように』にも耐えられるのだ。」といっています。強制収容所から生還した人たちはみな「人から必要とされている」と意識し続けた人たちでした。

これから後、あなたたちは数限りない挑戦をし、耐えなければならないことがあります。その時、ふと卒業式の光景を思い出して下さい。あなたたち一人一人を支えてくれている人がいること、あなたたちが「存在すること」そのことに大きな役割があること、そして多くの人から期待されているということ。

また、この卒業式の光景は、もう一つのことを気づかせてくれます。それは、可能性を秘めた一人一人だということ。人は未来に向け可能性の中で生きています。目の前で祝ってくれた在校生の成長の姿は、自分の成長と重なるのではないのでしょうか。字が書けるようになった、九九が言えるようになった、泳げるようになった、ものが作れるようになった。このできるようになったという爽快感や達成感が、次々と可能性を拓いてきたと思います。挑戦した後、できるようになった自分がいます。

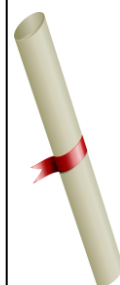
最初から道が拓かれていたわけではありません。無数の可能性に挑戦して、道ができたといえます。可能性を拓きその結果として、今の自分があることを。

自分は「かけがえのない」人であり、「未来に向け可能性を拓いている」人であることをこの光景に重ねあわせて、記憶にとどめておいてほしいと思います。

最後になりますが、保護者の皆様には、いつまでもお子さまの第一の理解者であって頂くことをお願いするとともに、これまで学校に対しまして多大なるご協力を頂き、心よりお礼申し上げます。

4月の主な行事予定

- | | |
|----------------------|-----------------------------|
| 6日（月）始業式 | 18日（土）懇話会懇親会 |
| 7日（火）入学式 | 21日（火）学力・学習状況調査、心電図検査（1・4年） |
| 8日（水）発育測定 | 22日（水）6年旅の学校 ～24日（金） |
| 10日（金）旧懇話会執行部会・常任委員会 | 27日（月）臨時懇話会執行部会・常任委員会 |
| 17日（金）学習参観日・懇話会総会 | 29日（水）祝日 昭和の日 |
| | 30日（木）砂の学校（予備日5月1日） |





巣立ちの時……ありがとう6年生のみなさん。本当によき先輩でした。



皆勤賞受賞！6年間、休まず登校しました。



心を込めて花飾りをつけました。



卒業証書を校長先生からいただきました。



見送ってくれた下級生と強い握手！



花のアーチをくぐり、退場しました。



卒業生を万感の思いで見守る担任団の姿がありました。



卒業生の入場です。担任も拍手で迎えました。

皆さんに毎日大切にしてほしいことが3つあります。

1つ目は、笑うこと。毎日笑ってすごしてください。

2つ目は、考えること。きっといい方法が見つかるはずです。

3つ目は、涙を流すこと。自分の感情に素直になってください。

新しい扉を開いて、はばたくときがきました。
卒業おめでとう。

鳥取大学附属小学校

6年1組担任 本田暢彦

6年2組担任 村上弘樹

担任から卒業生へ送ったメッセージです。



卒業制作「コルシカの港」(レオニード・アフレモフ作)の模写を力を合わせて完成させました。



2月下旬には、卒業を控えた6年生が、先生方への感謝の気持ちを込めて楽しい会を開いてくれました。歌や合奏、漫才など表現力豊かな6年生。チームワークも最高でした。この絆をいつまでも大切にしてください。

卒業生（6年生）への在校生からの送る言葉……ほんとうに、お世話になりました。

1年 長尾 奏風

（田村 美希 代読）

6年生のみなさん、ごそつぎょうおめでとうございます。

プールびらきの日、6年生といっしょに大きいプールに入りました。ふかいプールはこわかったけれど、6年生が手をつないでくれたり、おんぶをしてくれたりしたので、へいきでした。

こまったとき、いつもたすけてくれた6年生が大すきです。

2年 原田 辿地

ぼくは、うんどう会で、6年生のみなさんといっしょに大玉送りをしたことが楽しかったです。

6年生が、となりで、「がんばろうね。」と言ってくださったので、ゆう気が出ました。けっかは、ぼくのチームは負けたけれど、「がんばったね。」とほめてくださったので、うれしかったです。

ぼくも、6年生のみなさんのようなやさしい人になりたいです。

3年 中川 智恵

わくわくタイムでは、6年生がリーダーになって、みんなでドッジボールやおにごっこをして遊びました。

1年生がころがったボールを取りに行こうとしたら、6年生がかわりにひろいにいってくれましたね。

えがおで1年生にボールをわたす6年生のすがたを見て、わたしも、小さい子に親切にしようと思うようになりました。



在校生の各学年代表者が、卒業生に感謝の気持ちを伝えました。

5年 山田遼太郎

6年生のみなさんは、いろいろな活動や行事でぼくたちを助けてくださいました。

陸上部の練習では、6年生と、リレーのタイムを競い、そのおかげで、自分のタイムをちぢめることができました。

水泳大会では、急きょ、リレーのメンバーに選ばれたときに、きんちょうしていたぼくを、はげましてくださったことも、思い出として残っています。

また、応援練習など様々な場面で、リーダーとして、いつもやさしく、ときにはきびしく、みんなをまとめてくださいました。

ぼくたちは、そのような、まわりの人にやさしく、元気を与えてくださる6年生の姿を見習いたいと思います。そして、みなさんから教えていただいたことを大事にし、4月からは、最上級生として下学年をリードしていきます。ぼくたちの力で、附属小学校を、もっと、もっと、みんなで助け合うことのできる学校にしていきます。

今まで、本当に、ありがとうございました。

4年 杉山 泰知

4年生になり、上学年の仲間入りをしたぼくたちは、委員会活動に取り組みました。ぼくは、運営委員会に入りました。

毎朝のあいさつ運動では、どうすればたくさんの人があいさつをしてくれるのかと、とても不安でした。そんなとき、6年生のみなさんは、優しく、ていねいにやり方を教えてくださいました。

そのおかげで、不安だった気持ちはなくなり、すぐに大きな声で、はっきりと、自信をもってあいさつができるようになりました。本当にありがとうございました。

ぼくも、6年生のような信頼される人になりたいと思います。